

平成27年10月
内閣官房内閣人事局

1. 「ゆう活」実施者数・実施日数

	合 計	実施日数 (1週間未満)	(1週間以上2週間未満)	(2週間以上4週間未満)	(4週間以上)
本 府 省 等	約3.7万人	約0.3万人	約0.7万人	約0.7万人	約2万人
地方支分部局等	約18.4万人	約5.0万人	約4.5万人	約3.4万人	約5.5万人
合 計	約22.1万人	約5.3万人	約5.3万人	約4.1万人	約7.5万人

【参考】本年6月時点における実施予定者数 約22万人(うち本府省等 約3万人、地方支分部局等 約18万人)

2. 「ゆう活」1人当たり平均実施日数・勤務開始時刻

	合 計	うち7時台	うち8時台
本 府 省 等	24.4日	3.0日	21.4日
地方支分部局等	17.4日	13.4日	4.0日
全 体 平 均	18.6日	11.7日	6.9日



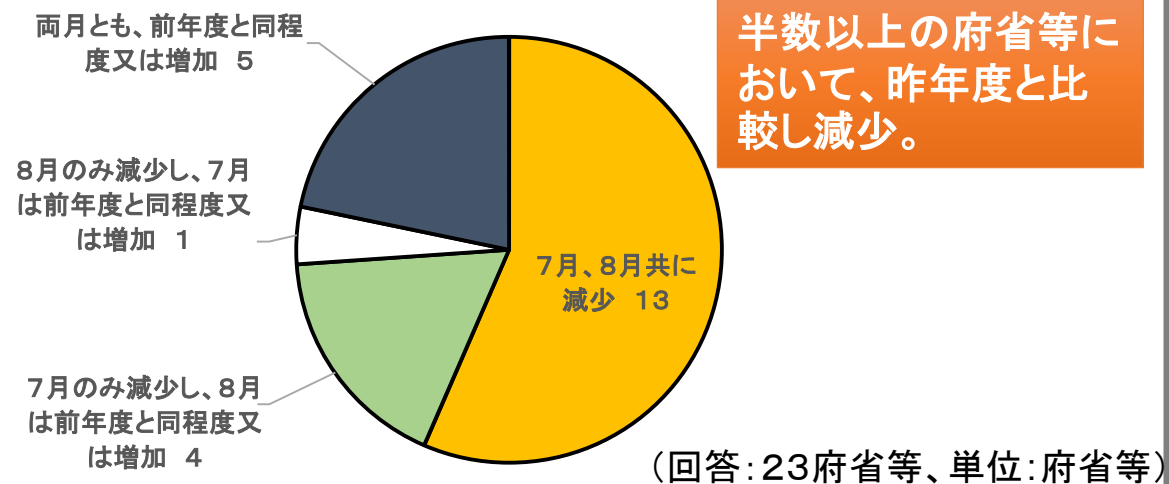
3. 「ゆう活」期間中の毎水曜日の退庁結果(本府省等のみ)

	平 均	7月1日	7月8日	7月15日	7月22日	7月29日	8月5日	8月12日	8月19日	8月26日
早朝出勤実施者の定時退庁割合	60.9%	65.3%	56.9%	57.3%	55.3%	64.7%	58.0%	66.9%	58.8%	65.2%
職員全体の20時までの退庁割合(※注)	81.2%	87.6%	79.3%	82.7%	80.3%	82.7%	78.3%	83.3%	77.5%	79.2%

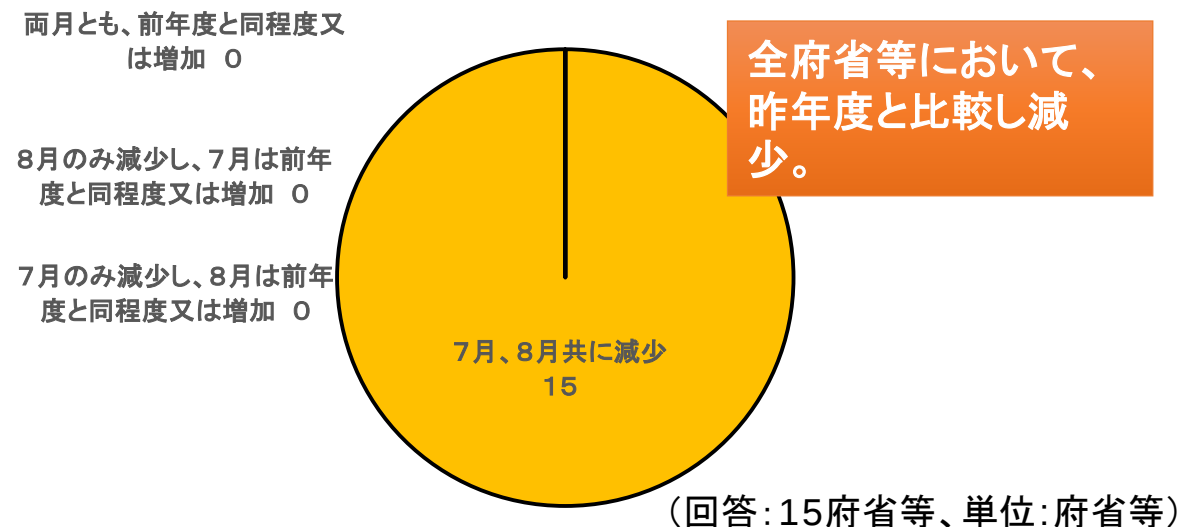
【参考】6月24日の職員全体の20時までの退庁割合:71.3%
※注 早朝出勤を実施しない機関(交替制勤務等の事情により、実施が困難な機関)の職員を除く。

4. 各府省等人事担当課調査結果（回答：23府省等人事担当課）

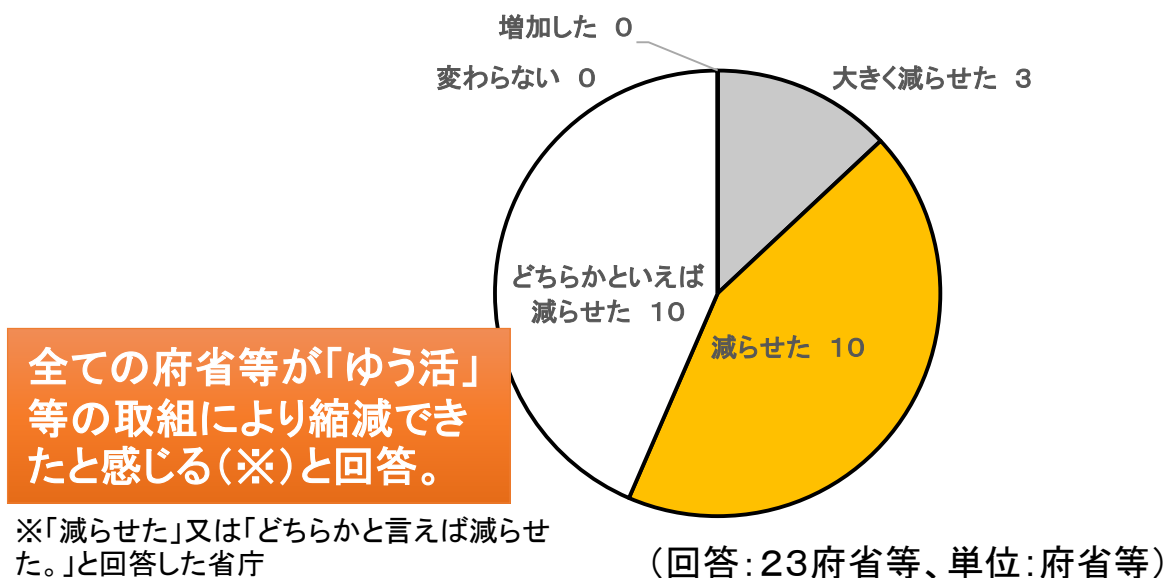
①昨年度7・8月と比較して超過勤務時間が減少しましたか？（本府省等）



②昨年度7・8月と比較して超過勤務時間が減少しましたか？（地方支分部局等）



③「ゆう活」等の取組により、定時以降の業務時間を縮減できたと感じますか？



④「ゆう活」・WLB月間の取組の効果について（自由記述）

- ・ 定時退庁するという機運が醸成され、若手職員でも、「ゆう活」という大義名分をもって退庁できる雰囲気ができた。
- ・ 育児時間や育児短時間制度を活用している職員から、「様々な勤務形態の職員がいたことから普段より退庁しやすかった」という意見があった。
- ・ 「一緒にいる時間が増えたことで、家族や地域とのつながりを考える機会が得られ、有意義であった。」「閉店時間が早い店舗を利用することができた。」等の意見があった。
- ・ 定時後に、職員による自主企画研修として「ゆう活勉強会」を開催するなど、自己研鑽の活動を行うことができた。
- ・ 業務について、無駄がないか再確認するいい機会となった。
- ・ 限られた時間の中でメリハリを付けて、業務遂行する意識が芽生えた。
- ・ 公印省略によって、文書のやり取りが合理化できた。
- ・ 「ゆう活」を機に仕事と家庭の両立について職場内で話題にすることができ、その他の制度も含めて積極的な活用を促すことができた。